

会 議 録

会議の名称	令和6年度第1回行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議	
開催日時	令和7年2月4日（火） 開会：午後2時00分 閉会：午後3時30分	
開催場所	行田市産業文化会館管理棟2階 第2会議室	
出席者（委員）氏名	長岡幸雄委員、千代田翼委員、須加沙知子委員、細井保雄委員 佐野和美委員、新井喜好委員、長谷川和美委員、長谷部福一委員 浅見今日子委員、飯田勇司委員、阿久戸佳代委員、寺山昌文委員 金井陽一郎委員、阿部映里香委員、横田英利委員、岡登圭太委員	
欠席者（委員）氏名	柿沼宏政委員、橋本兼一委員	
事務局	川上総合政策部次長兼企画政策課長 横倉企画政策課主幹、青柳企画政策課主査、深谷企画政策課主事	
会議内容	（1）第2期行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について （2）第3期行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案について	
会議資料	<ul style="list-style-type: none"> ・ 会議次第 ・ 委員名簿 ・ (資料1) 地方創生について ・ (資料2) 第2期総合戦略の令和5年度進捗状況 ・ (資料3) 行田市の人口動態等データ ・ (資料4) 第3期総合戦略（素案） 	
その他必要事項		
会議録の確定	確定年月日	主宰者氏名
	令和7年3月10日	横田 英利

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司 会	1 開会
横田座長	2 委嘱状の交付
横田座長	3 あいさつ
司 会	4 議事
司 会	<ul style="list-style-type: none"> ・ 議事に入る前に、会議の公開・非公開に関する取扱いについて、確認させていただく。本日の会議では、個人情報を取り扱う予定がないことから、公開とさせていただく。 ・ 会議録については、発言者名を明記の上、要点筆記で作成し、後日、市役所 2 階の市政情報コーナー及び市ホームページで公開させていただく。 ・ それでは、次第 4 議事に移らせていただく。 ・ 議事の進行は、「行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議設置要綱」第 3 条第 2 項及び第 3 項の規定により、横田副市長に座長として進行をお願いする。
横田座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、暫時、議長を務めさせていただく。 ・ はじめに、議事（1）「第 2 期行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況」について、事務局に説明をお願いする。
事務局	〈資料 1 ～ 3 に基づき説明〉
横田座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ただいま事務局より、第 2 期総合戦略に位置づけた施策等の実施状況や進捗状況について説明があったが、ご意見があればお願いします。
長岡委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本目標 2 の数値目標「観光入込客数」の令和 5 年度実績が約 160 万人ということであるが、内訳について、男女別や年齢層別のほか、来訪者の居住地などを把握しているか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ そうした細かいデータまでは把握していないが、昨年度は田んぼアートが大盛況となり、その影響で古代蓮会館の入館者数が増え、

長岡委員	<p>その結果観光客数の増加に繋がったということは把握している。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 性別や年齢層等の傾向が把握できていると、今後の政策にも生かせると思う。 ・ 先日、はちまんマルシェの関係者から「行田は観光客は来ているが、立ち止まらずに去って行ってしまうため滞在が欲しい。」という意見を聞いた。そのような細かい点についても補っていただけると良いと思う。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全体的な観光客の傾向として、「モノ」消費よりも「コト」消費に変遷していると認識している。そのため、市内に長く滞在していただくための体験型観光を推進していかなければならないと考えている。その施策の1つとして、観光客に好きな足袋と雪駄を選んでいただき、日本遺産を巡るガイドツアーを開始した。こうした取組みを継続していくことで、結果として多くの観光客が来訪し、滞在時間が増える傾向に繋げていければ良いと考えている。
横田座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本市の観光の形態としては、主に日帰り観光客が多い傾向にある。そのため、来訪者にとって市内を快適に回遊することができる施策が重要だと考えている。 ・ 本市としては、この部分を重視し、国庫補助金を活用しながらおもてなし観光局と連携した体験型観光を展開していくことが必要であるかと思う。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 資料の見方を教えていただきたい。K P I の目標値と実績値が掲載されているが、矢印は令和5年度目標値に対する実績と達成状況を表しているのか。また、令和6年度目標値は、参考記載ということか。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 令和6年度目標値は、令和2年に5か年計画として策定した第2期総合戦略の策定当時に設定した最終目標値である。そのため、令和6年度目標値と比較して令和5年度の実績がどの程度かという点が、効果検証の判断材料になる。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本目標2「(2) 拠点エリア整備による賑わいの創出」の課題や今後の取組予定として、ウォーカブルなまちづくりの推進と記載

事務局	<p>があるが、具体的な取組み内容は何か。</p> <ul style="list-style-type: none"> 行田市駅南口周辺をはじめ、市街地を訪れた方にとって居心地が良く歩きたくなるまちづくりを推進したいと考えている。そのため、歩道の段差解消や、ゆっくり安らぐことのできる休憩所などのハード整備に加え、官民連携によるソフト施策を展開し、ウォーカブルなまちづくりを推進していきたいと考えている。
長谷川委員	<ul style="list-style-type: none"> 行田市は小さなお店でも、魅力あるお店がまちなかに点在し、それを繋ぐような取組みがあると良いと感じていた。併せて、休憩所があるとお店で何かを購入し、そこで休憩するというような人の流れが出来ることから、良い取組みであると考えている。
金井委員	<ul style="list-style-type: none"> 資料3「行田市の人口」について、2ページに人口増減の内訳があり、社会増減が2022年からプラスに転じ、2023年はさらに伸びているが、その要因は何か。
岡登委員	<ul style="list-style-type: none"> この部分が本市の消滅可能性都市からの脱却の手がかりになると考え、分析をしているところである。社会増加の傾向は本市だけではなく、県北の多くの市町でこうした傾向が見受けられることから、行田市特有の要因というより、もう少しマクロ的な要因があると考えている。本市の人口動態としては、県南部からの転入者が比較的多い傾向があるが、その要因として考えられるのは、都心部を中心に首都圏の不動産価格が高騰していることが考えられる。例えば、都内に居住している方が埼玉県南部の方に移住し、県南部に居住している方はもう少し郊外へ移住しているのではないかと考えている。
千代田委員	<ul style="list-style-type: none"> 基本目標4「時代に合った活力ある安心な地域を創る」に健康づくりに関する事業の記載があるが、特に子どもたちに対する健康づくりの取組みが必要であると思う。例えば、行田市では給食で地場農産物を使用しているが、こうした市の取組みを、他市の小さな子どもを持つ親向けに発信すると良いと感じる。 テレビではあまり放映されていないが、アメリカでは健康が非常に重要視されはじめており、人体に影響があるとされ使用できな

事務局	<p>い着色料が、日本では安全であるとされ使用されている現状もある。5年後、10年後を見据えた場合、例えば給食にオーガニック食材を取り入れるなど、安全面に配慮した子育てを展開すると良いと考える。農業に従事される方にとっては大変であると思うが、他市からの転入を考えている方にそうした特色ある給食等をアピールすることも良い取組みであると感じた。</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度からの取組みとして、市の公式LINEを通じて学校給食の献立とともにアレルギー情報を配信するなど、給食に関する取組みにも力を入れはじめてはいることから、貴重なご意見として担当課にフィードバックさせていただく。
横田座長	<ul style="list-style-type: none"> 市ではプレコンセプションケアを通じて、若い世代からの健康づくりのため、食生活を整えるなどの取組みを推進しているところであり、例えば、健康について有機農業も絡めた食生活に関する情報発信を今後進めていきたいと考えている。
寺山委員	<ul style="list-style-type: none"> 生まれ育ったまちの歴史というのは、市民にとって誇りになるものだと感じている。また、自分自身が年を重ねてきたこともあり、人が生きる意味や生きがいとは何かといったことを徐々に考えるようになってきた。その際、やはりベースになるのは自分が住んでいる地域の歴史や環境ではないかと考えている。行田市は埼玉県名発祥の地として、5世紀ごろから様々な古墳が築かれた歴史を踏まえると、非常に誇り高きまちではないかと思う。今後、さらに普及していくと思われるAIにとっても到達が難しいとされる感性を養うとともに、これからの子どもたちが行田に住んでよかったと心から思えるようなまちづくりをしてほしいと思う。 そうした取組みが豊かな人間力を形成し、活力の源になってくるのではないかと考えるが、子どもの教育の中にしっかりと根付いていかないと将来を見通す時にまちの発展には繋がっていかないと考えている。そのため、行田市のあり方を議論していただき、それを実践していただければ良いと思う。
横田座長	<ul style="list-style-type: none"> 行田は長い歴史が息づくまちであり、市民もその点に関してシビ

	<p>ックプライドを持っていることから、そうしたことに特化して事業を展開していくことは重要であると考えます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ それでは、続いて、議事（２）「第３期行田市まち・ひと・しごと創生総合戦略の素案」について、事務局に説明をお願いします。
事務局	<p style="text-align: center;">〈資料４に基づき説明〉</p>
横田座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ ただいま事務局より第３期総合戦略の素案について説明があったが、ご意見があればお願いします。
長岡委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災防犯のまちづくりを推進するにあたり、自治会連合会で検討していることは、災害時における認知症の方々の避難誘導である。現在認知症患者は全国で７００万人ほどいると言われており、その対策として本市の地域包括支援センターによる講習等を受講している。しかしながら、我々自治会そのものも高齢化していることが、今後の防災防犯まちづくりを推進していく中での一番の課題であると考えている。これらに関する取組みを総合戦略内に位置付けてもらいたい。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災防犯のまちづくりを推進していく上では、そうしたことにも十分配慮しなければならないと考えている。国は「新しい認知症感」の取組みを推進しており、認知症になっても、希望を持って自分らしく暮らし続けることができる」社会を目指すこととしている。そのため、本市では、認知症サポーター養成講座やオレンジカフェをはじめとした認知症に関連する取組みを総合的に実施することで、認知症は誰でもかかる可能性がある病気であることを市民１人１人が自分ごととして理解するなど、認知症になっても自分らしく暮らし続けることが出来る地域を実現したいと考えている。
横田座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症に対する施策というのは事務局の説明のとおりであるが、長岡委員のご意見は災害時に認知症の方の支援をどうするかということであるため、それについては今後策定する個別計画の中に盛り込むことなどが考えられるため、担当に共有させていただく。
阿部委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本目標４の数値目標について、第２期総合戦略では「行田が住

岡登委員	<p>みよいと考える市民の割合」であったのに対し、第3期総合戦略素案では「行田市に住みたいと感じている市民の割合」と表現が変わっているが、何か理由があるのか。</p> <ul style="list-style-type: none"> 本市では、若い世代の方々が就学、就職を機に市外に転出した後、行田に戻らないことが人口減少の大きな要因として捉えており、市外からの人口流入を増やす施策と、今住んでいる方々にそのまま定住していただく施策の2つが必要であると考えている。そうした課題を踏まえて、「住みよい」ではなく、定住意向の要素が強い「住みたい」という表現に変えたところである。
須加委員	<ul style="list-style-type: none"> 事前に子育てに関して知人に聞き込みをしたところ、小学校の保護者の方々は、やはり金銭面での支援を求めており、給食費の無償化がありがたいということであった。行田市で実施している給食費の無償化については、第3子以降のみを対象としていることから、全ての子育て世帯にとって平等では無いと感じている。さらに、若い方からは金銭面が不安で、子どもを産めないという話を聞く。そのため、人口を増やすには、実際に若い方々が思っている金銭面の部分に関する施策が必要であり、近隣自治体との差を考えても、具体的な数字が焦点になると思う。 以前、産業文化会館で開催された尾木直樹氏による講演時のことであるが、とても素晴らしい市であり田んぼや畑がすごく多いとのことであったが、これを皆さんは活かされているのか、保育園で田植えをしているところはあるかとの質問に対し、実施していると回答した園もあれば、していない園もあった。せっかく行田に住んでいるのであれば、小さい頃からそうした部分に触れていくと興味が出てくる子もいると思うし、結果としてその先に繋がって農業をする人も増えたりするのではないかと思う。私の率直な意見としてはもう少し具体的に子育て世代の意見を聞くとか、先程の認知症の問題であれば年代別に意見を聞くなどすると、さらに良くなっていくのではないかと思った。
事務局	<ul style="list-style-type: none"> 人口減少対策としては、先程の説明でも申し上げたとおり本市の

<p>佐野委員</p>	<p>基本構想における重点政策でも「子育て支援の強化」を掲げており、新たな負担軽減策やサービスの強化を図る必要があると考えている。一例として、今年度の途中から市立保育園に通う子どもの紙おむつ定額サービスを実施しており、試行的に12月31日までは無料としていた。このように1つの施策を開始するにしても、試行期間を設けるなど、そうした過程で様々な方々から意見を取り入れながら事業を展開することが重要である。給食費の無償化が必要かどうかという点についても、今後の検討事項の1つであると考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ また、農業体験については取組みの1つとして、田んぼアートによる田植え体験を実施しているところであり、それだけではなく市内にはイチゴなど農産物の収穫体験ができる施設もある。基本構想においても中長期的ではあるが、“農業だけでなく体験農園や、市民や観光客が行田の自然に触れることのできる環境が豊富に用意されている”という将来像を設定していることから、その実現に向けて、そうした取組みをさらに発展させていきたいと考えている。 ・ 第2期総合戦略の基本目標1「(2)地元企業育成と起業・創業支援の強化」では、創業支援ワンストップ相談窓口や起業支援事業等が位置づけられており、非常に素晴らしいものだと思うが、隣の羽生市や加須市、久喜市など各市の施策も確認すると、例えば隣の羽生市では創業時に100万円の補助が受けられるケースもある。行田市も補助金制度があるが、空き家を活用しないと受けられないという制限があることから、その点を緩和していただき、誰でも使いやすく出来ればより行田市で創業したいという方が増えていくのではないかと思う。 ・ また、基本目標1の基本的方向に「製造業や物流施設、商業施設など様々な企業を誘致することで市内に雇用を創出する」という記載があり、これも素晴らしいことだと思うが、行田市内の中小企業や小規模事業者は、コロナ禍後も売上げが回復していない影
-------------	--

横田委員長	<p>響で倒産が多い。そうした企業にも手を差し伸べる施策があれば良いと感じた。</p>
事務局	<ul style="list-style-type: none"> ・ 佐野委員の意見については確かにそのとおりであり、起業家支援により初期投資に対する予算を拡充したところである。 ・ 起業家支援についてはこれまで、空き家の改修に係る補助と、毎月の家賃補助3年間分の二つの区分で実施していたが、起業時においては、建物の改修費用だけでなく、設備の購入費用などの初期投資費用も負担が大きいことから、家賃補助に代わり、設備購入費などを補助することで、さらに起業しやすい環境を整えたところである。まだ変更してから1年目であることから、今後、施策の効果を検証していく必要があると考える。 ・ また、創業後5年未満の方などに対しては、市と関係機関が連携して「特定支援等事業」や「創業セミナー」などを実施し、結果として税制優遇が受けられるなどの支援が可能となることから、引き続き、そうした市内産業の振興のための支援を継続してまいりたい。
飯田委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 基本目標3「(3)子育てと就労の両立支援」について、ワーク・ライフ・バランスの記載がある。これから就職する若い方は、ワーク・ライフ・バランスを非常に意識している。休日を増やすなどの要求は、労働者が働きかけていくこととなるが、行田市としても重要であると思う。 ・ また、保育士人材の確保にも取り組んでいるとのことであるが、それだけではなく、例えば、中小企業が託児所を整備したら市が補助金を出す制度など、今後、働く女性を増やしていくためにはそうした環境整備も必要であると考えている。
新井委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 行田市はスマート農業の先進地であり、昨年末、埼玉県知事にお越しいただき行田市との共催でスマート農業技術実演・展示会を行うなど、スマート農業を推進していただきありがたいと思っている。スマート農業は今後農業に従事していくにあたり必須とも言えることから、引き続きご支援いただきたい。

	<ul style="list-style-type: none"> ・ また、給食についてであるが、行田市は紛れもなくお米の産地であり、圧倒的に畑よりも田んぼが多い。このことから、我々生産者は市内で採れたお米を行田市の給食に使用していただけたらありがたいと思っている。現在、市内の学校給食には県南部の業者が炊いたお米を持ってきて使っていると聞いているが、農業者からすると食育も絡めて我々が行田で作ったお米を子どもたちに食べていただき大きく成長していただきたい。これは悲願であると仲間とも話している。 ・ 先程オーガニックについて話があった。現在は食材の価格も上がっており、栄養士の方も限られた給食費の中でどのように栄養バランスを取りながら、どうしたら子どもにお腹いっぱい食べてもらえるかということ考えながら献立を作っているという。お米も非常に値上がりしており、カメムシによる被害も市内では多く発生しており、防除が必須になっている状況である。オーガニック給食が実現できたら良いとは思いますが、給食費の問題、それから害虫の問題からすると少し難しいと思う。小中一貫校が実現する際に、自校式給食に切り替えていただき、行田で採れたお米を子どもに食べてもらえるようになると嬉しい。また、行田市は米の産地であるため、米飯製造業者を行田に誘致し、行田に限らず近隣市の米を含めて、東京等の大消費地に出荷できるような取組みが実現すれば、雇用の創出だけでなく、より安全な給食の提供にも繋がるのではないかと思う。
横田座長	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現在、手で植えている田んぼアートもスマート農業をもっと大々的に活用し、簡単に植えられるのだというのをさらにPRした方が良いと思っている。 ・ 地産地消の観点から、やはり行田の米を行田の児童生徒に提供することは、非常に大事であると思うので、今後の参考にさせていただく。
阿久戸委員	<ul style="list-style-type: none"> ・ 市外から行田に転入してこられた方にとっても、子育て支援に対する関心は高いと思う。それらに関連するものとして、基本目標

	<p>3 「(1) 出会いから妊娠・出産・子育て期への切れ目のない支援」に関連するK P I「こども誰でも通園制度の利用児童数」や、「(3) 子育てと就労支援の両立支援」のK P I「保育施設待機児童数」の記載が児童数となっているが、実際は未就学児のことを指しているのか。</p>
<p>事務局 阿久戸委員</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ その認識で差し支えない。 ・ 今後、こども誰でも通園制度などが本格的に実施されてくると思うが、受入れ側である保育施設の保育士が大変になるという話も聞いている。保育士の負担増とならないためにも、預かる側となる保育施設に対する配慮もすることで、さらに行田は子育てがしやすいと思ってもらえるようになるのではないかと思った。
<p>横田座長</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子育て支援策を強化していくため、引き続き、こども誰でも通園制度と並行して保育園の入所定員を維持するための支援を実施してまいりたい。 ・ 本日は様々なご意見をいただき、感謝申し上げます。各委員からいただいたご意見は全庁で共有し、新たな総合戦略策定に当たり参考とさせていただく。これにて、会議の進行を事務局にお返しする。
<p>司 会</p>	<p>5 閉会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 以上をもって、令和6年度第1回行田市まち・ひと・しごと創生有識者会議を終了する。